

19 照明、ライター



40W 白熱電球



40W 相当蛍光灯(8W 消費)
電流測定比較実験



40W 相当 LED(4W 消費)



第二次大戦中の防空用電球 [1]

第二次世界大戦末期には日本が米軍の激しい爆撃を受けた。特に夜間、光が漏れている施設や住宅は爆撃や機銃掃射された。そのため電球を暗くするとともに電球の真下にしか光が出ない電球が使われていた。この光の下で食事や勉強をしていた。電球はマツダ製5W、2・3畳用である。



ライターの点火と燃料 [1]

ライターは古くは火打石(フリント)が始まりであり、点火燃料はモグサが用いられていた。その後火打石と火縄、火打石と石油、白金黒とエチルアルコール(自然発火するので非常に危険、発売は短期間)、火打石とガス、電池を用いた火花とガス、圧電素子とガスへと変化する。左はタニタ製の電池とガス(1970年代)の時代で、ケースは当時非常に高価であったチタンが用いられている。右は火打石と火縄(火縄は古く劣化しているため着火しない)。ケースは蓋や鎖も含め銀製である。製造時期 1965年以前である。

[1] 東京工業大学 名誉教授 肥後矢吉 氏 寄贈